

公金 横領 事件

～市職員に呼びかけます～

一丸なつて、不正を憎み、信頼回復へ

マスコミでも大きく取り上げられた流山市職員による公金横領事件。市民からは「もう信頼できない。税金払いたくない」「市民まつりへの寄付の協力をと、企業へ頭を下げてきた。やりきれない」との声が聞かれます。

不正は絶対に許されない

市議会に報告された経過	
H25年3月下旬	おおたかの森出張所で税金等の公金約600万円の納入が2週間遅れる
4月15日	本人から公金600万円全額返済
H26年3月	市民まつりの市担当者がまつり実行委員会口座の通帳記帳を実施した結果、H25年度市民まつり決算終了時～H26年2月までに計4回、約116万円の引落が発覚
4月4日	本人から約116万円全額返済
4月9日	市民生活部からの報告
4月15日	本人への事情徴収
4月22日	本人への事業徴収
4月25日	本人への事情徴収(おおたかの森出張所長時代、税金等の公金約600万円の横領を認める)
4月28日	本人への事業徴収(コミュニティ課長時代、市民まつり実行委員会口座からの116万円の横領を認める)、本人から顛末書が提出
5月2日	警察に事件相談
5月8日	市賞罰審査委員会開催
5月9日	本人懲戒免職
5月12日	市議会全員協議会に報告、記者会見

公金や市民まつり実行委員会繰越金の私的流用はどんな理由があるにせよ、絶対に許されません。

ましてや、市民まつり実行委員会には市民ボランティアの奮闘

に支えられ、市民や自治会、市内企業の寄付金によって成り立っていることから、市役所だけではなく、関係者にも泥を塗る行為です。

市長は、3ヶ月間、報酬10分の1減額

今回の横領事件に対する処分は、本人が懲戒免職となった以外に、市長・副市長は報酬10分の1減額を3ヶ月、事件を起こ

した市職員の直属上司は部長職からの降格人事、10分の1報酬減額を6ヶ月としました。

裏面へ

5年で2度目の横領事件 個人責任だけにするな

市長は記者会見で、「厳しい内容のマニユアル作成するなど再発防止に取り組んできたが、機能せず悔やまれる」と発言したと報道されました。

『再発防止』とは、H21年10月にも、定額給付金の横領事件が発生し、H22年2月に、『公金等の適正管理に関する検討結果報告書』（流山市公金等適正管理検討委員会）が提出され、マニユアルを策定してきたことを意味します。

なぜ機能しなかったのでしょうか。

小田桐たかし市議は、「マニユアルで複数チェック体制といながら、定額給付金の時も、今回も公金の最終的な管理が職責者一人に集中させて発生している。おたかかの森出張所は土日や夜間帯の開設も多く、勤務体系は複雑で、孤立化しやすい職

場。さらに、税の収納など特段の業務を担っても、現場の多くは臨時職員。これでは複数チェックどころではない」「定額給付金横領事件の総括が職員個人の倫理観だけに目を向けてしまい、膨大な業務量や業務実態を無視した人員削減や臨時職員への転換という組織的な課題には蓋をした結果、マニユアルも形だけになっていたのではないか」と指摘します。

今回の横領事件を起こした直属の上司は、公金等適正管理検討委員会の下部組織、公金等適正管理検討部会（5名）の一人。不正行為に対する意識が高い職員だったはず。また、公金横領をした市職員は、公務員の中でもコンプライアンスのより高い職業に就業していた経緯もあることから、個人責任だけに歪曲せず、組織的な総括が必要ではないでしょうか。

個人も集団も組織も 不正許さぬ気風を今こそ

H25年3月の問題発生時以降、本人はもちろん、市職員の同期や先輩後輩、課内・部内における職員集団、市組織内でどんな取り組みをしたのでしょうか。

見て見ぬふりや隠ぺい行為があったなら、組織的な根の深さを思量されます。

そもそも、市長が自慢するマニユアルの『厳しさ』が業務を委縮させたり、失敗を隠

ぺいする方向への動機になっては意味がありません。

容疑が特定できない状態での『自首』行為は、裁判の際に情状酌量の対象でもあることから、

本市でも、不正行為かどうか判断できない時に、早期解決を促す仕組みも必要ではないでしょうか。

そして、何気ない職場内の変化、職員の変化に声を掛け合うなど、相談しやすい人間関係等を高めあうことも欠かせないのではないのでしょうか。



月9万7230円 トップの姿勢…

今回、初めて市長は自分の処分を発表しましたが、わずか3ヶ月間、わずか月9万円の報酬減額で終わりです。直属上司よりも軽いのです。

5年で2度目の横領、自発的に相談できない体制：自分の非はわずかなのでしょうか。

4月以降、療養休暇を取得する役職者が相次ぐ等、業務過重・慢性的な職員不足は深刻です。

今回の不祥事で、トップ自らがどう責任を痛感し、どんな処分を示すのか：職員は見ています。

全職員が今度の不祥事を我が事のように受け止め、倫理観等を高める身の処し方をトップが感じ取れないようでは、不祥事がさらに続くのではと懸念してしまいます。



小田桐たかし

日本共産党流山市議会議員